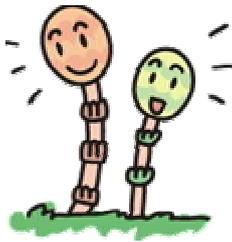


ユーアイやちよのあゆみ



51号

2009年3月21日 発行



介護報酬の改定について

2009年4月から介護報酬が3%引き上げになる。もともと2003年に2.3%、2006年に2.4%と合計4.7%引き下げられたから、今回3%引き上げても制度開始当初から見れば1.7%減である。従って3%の引き上げは歓迎するべきことではあるが、これで十分というわけではない。

3%引き上げることによって介護職員一人当たりの賃金が月平均2万円増えるとの政府発言があり、マスコミもそのまま報道したことがあった。しかし、ちょっと暗算しただけでも、この話はあるにないことがわかる。仮に賃金が20万円としても、その3%は6千円となり2万円には遠く及ばない。2万円増えるという受けそうな話にぬか喜びをさせられた向きも多かった筈である。この背景には、それくらい増やすのが妥当であるという意識があったからに他ならない。それならばむしろ、2万円増やすことを前提として、その結果として10%の引き上げが必要になるというような発想の転換をするべきであろう。3%にこだわる必要はないのである。

介護現場の人手不足は深刻である。この解消策として、外国人ヘルパーの受入れや失業者の介護資格取得推進があるが、あまり現実的ではない。即効性があるのは、介護従事者の抜本的な処遇改善を図り、介護資格を持っているにもかかわらず他の職業に就いている「潜在的有資格者」を介護福祉現場に呼び戻すことであると言われている。そのためには2万円でも不十分かも知れない。行政資料において、介護報酬引き上げの三つの視点の第1番目に「介護従事者の人材確保・処遇改善」を掲げているが、この趣旨を実現するためには介護報酬の尚一層の引き上げが必要である。市民福祉団体全国協議会などの関係団体は既に改善提言等の動きを強めている。我々も今後継続的に介護報酬の動向を注視しつつ適切に対処する必要があるが、その一方で、与えられた枠組みの中で改定内容を十分に理解し、事業所加算要件などをできるだけ真摯にクリアするとともに、介護福祉本来の役割を果たして行くように努めて行かなければならない。

桃井哲朗

成年後見制度って何？(12/20 定例研修会より)

講師 権利擁護センターばあとなあ千葉
中山 敏子氏

制度の基本について(講義の概要)

- ・ノーマライゼーション、自己決定の尊重、身上配慮(環境、有用能力、資質を配慮)し、その人の生活を支えるという理念に沿って
- ・判断能力の不十分な方(認知症、知的障害、精神障害)が安心して生活できるように支援する制度。
- ・不動産や預貯金などの財産管理、介護サービスや施設入所に関する契約を結んだり、悪徳商法の被害から守る(身上監護と財産管理)
- ・法定後見制度(後見、保佐、補助)と任意後見制度(判断能力のあるうちに自ら選んでおく)

受講感想(ふり返し票から)

判断能力がなくなった時も、その方が今までどおり、住み慣れた場所で豊かに生活を送るため支援する制度で、詳しくお話くださいました。まだ、知らない方も沢山いらっしゃるようなので、いつでもその知識を思い出せる様、心がけていきたいと思いました。

生貝清子

ユーアイやちよ利用会員さんが制度を利用

一人暮らしのKさんは頼れる身内が居らず、何か困った時(今回は通院時に駅で転倒骨折し入院)は、当会に連絡のつくよう、常にメモを持って、毎年ユーアイの利用会員として年会費を納入していたのですが、(H.18年7月発行の“あゆみ”で紹介)昨年7月買い物に出かけた先で倒れ(くも膜下出血)、長期の入院となりました。倒れた時は、ユアエルムからきちんと当会への連絡をとってもらえましたが、長いICUで治療の後、脳の病変で、物事の判断能力が低下してしまいました。“ユーアイやちよ”で入院中のお世話や手続きを代行すると同時に、市役所に状況を報告、後見人制度の利用となりました。ご自宅に帰りたいといていたKさんをお気の毒に思いますが、私たちにできることには限りがあります。手続きには半年以上かかりましたが、その間、地域に根ざし、支え合いを大切にしていって、チームケアで、制度外のお手伝いができた実感しています。

今回、ようやく後見人さんが決まり、特養入所も間近となりました。

椎名



豆知識

現在、85歳以上の4人に一人が認知症の症状がある。65歳以上では6.7%。

10年後は65歳以上で10人に一人が認知症になるその数、169万人20年で倍増するといわれている。

「認知症サポーター」養成講座に参加して

3月7日(土)教育委員会

「認知症サポーター養成講座」に市内、7箇所のふれあいサロンスタッフとユアイヤちよボランティア会員、他45名が参加しました。

「認知症サポーター」は、認知症になっても安心して暮らせるよう、地域で認知症の人と家族への応援者となるものです。認知症を自分自身のことと感じ、正しい知識や接し方を理解して、自分でできる範囲で認知症の人や家族を見守っていくこと。認知症の方は、出来ない所だけ、地域の人たちが“人間の杖”となることで、十分、地域で暮らせるということを勉強しDVDの事例からも、納得できました。受講者に配られた[オレンジリング]は「認知症の人を支援します」という意思を示すものとのことです。

肝付逸子

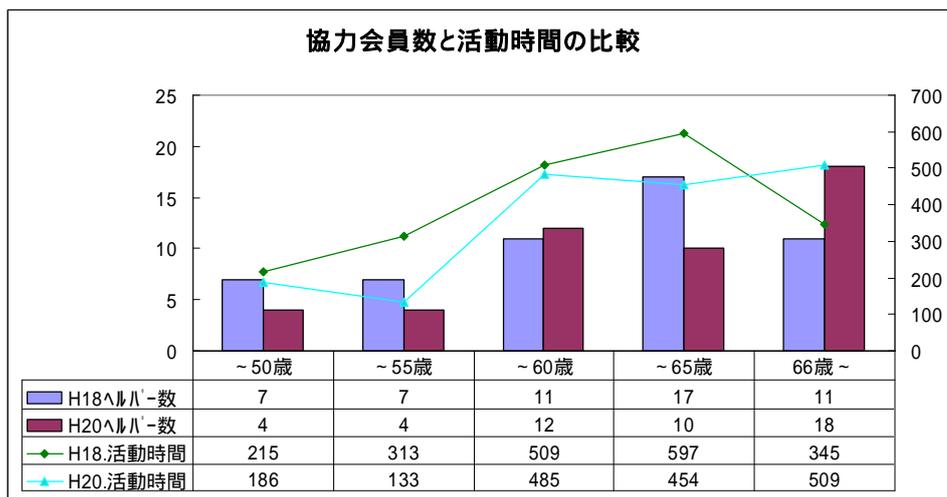
ヘルパーさん募集中

ヘルパー不足が社会的にも問題になっていますが、ユアイヤちよも平成18年に53人だったヘルパーが平成20年には45人に減少しています。下図は、現在の年代別ヘルパー数と活動時間を示したのですが、50歳代のヘルパーが減少していることが良く分かります。

将来の姿を考えると、若い人に介護に目を向けてもらい、ヘルパーになってもらうことが重要です。お知り合いの方で、ヘルパーになっていただける方がいましたら、ぜひご紹介ください。



協力会員数と活動時間の比較



行事報告（H20.9月～H21.3月）

- 9/20 定例会 研修「介護する人の腰痛予防」健康づくり課 PT 安達さくら氏
10/18 定例会 研修「よりよいコミュニケーション技術」
11/15 定例会 研修「包括支援センターの役割」八千代台包括 鈴木千壽恵氏
12/20 定例会 研修「成年後見制度とは？～制度の基本を学びましょう」
権利擁護センターぱあとなあ千葉 中山敏子氏

21年

- 1/17 新年会
1/15～2月 従業者個人面接
2/17 介護講演会「宇宙人からの贈り物」～心の世界～ 橋凡子氏
(八千代市社会福祉協議会、介護サービス事業者協議会)
2/21 定例会 研修「訪問介護中のリスク管理」「トラブル対応」
3/4 千葉研修団指導「訪問介護」
3/4 ふれあいサロン緑が丘5周年記念
3/6 千葉県集団指導「居宅介護支援」
3/7 ユーアイやちよ 地域活動会員交流会 23名
《認知症サポーター養成講座》 ふれあいサロンスタッフ 45名
3/10 集団指導「障害者自立支援、居宅介護」



今後の予定

- 3/21 定例会 20年度の反省
4/18 定例会
5/10 21年度総会

編集後記

先日、加島祥造さんという方の詩集「求めない」を読みました。加島さんは1923年生まれで、信州の伊那谷に独りで住んでいるそうです。「老子」を現代語訳し、ベストセラーとなった方でもあるそうです。

この詩は、全てが「求めない」で始まっていて、求めなければどうなるという2行から3行くらいの詩を最後まで続けたものです。その中で最も印象に残ったのは、求めている限り自分は求めるものの従者でしかないけど、求めなければ自分が主人になれるという部分でした。求めれば、必ず求めるものに振り回されますから、自分が自分でなくなってしまうこともあります。求めないで、相手や今をそのまま受け入れることができれば、強く、そして幸せになれると思います。

少しでも近づけるように心がけたいなと思います。

網干

ユーアイやちよ の あゆみ

〒276-0034 八千代市八千代台西8丁目16-1

TEL.047-482-4109 FAX.047-482-4179

編集人 網干 発行人 桃井 哲朗